

第21回 大阪府学校教育審議会 概要

日 時：平成19年8月31日（金）13：45～16：15

場 所：プリムローズ大阪 鳳凰東

出席委員：竹内洋会長、泉薫委員、泉千勢委員、一色尚委員、尾崎静江委員、川崎友嗣委員
川戸圓委員、千本暁子委員、中井英雄委員、森田英嗣委員、吉村憂希委員
脇本ちよみ委員、米川英樹委員

◎：会長 ○：委員 □：事務局

◆大阪の教育をめぐる状況について

◎：p23の「日本の教育は悪い方向に向かっているという割合が半分」というところだが、最近調査すると、警察、医療など何についても悪くなっているという結果が出る。その中でも教育が一番悪い方向に向かっているところが問題。教育や学校に対する不信感が非常に高い。また、読書については、大学生もひどい状況で、ある大学では、一ヶ月に一冊も本を読まない人が30%。

質問やこんなデータもあれば、というのがあればどうぞ。

○：p35あたりで、特色づくりをすすめてきたということで、いろんな種類の学校ができています。ニーズに応じてやってきているが、その成果をどうやって検証するのか？ 進学率が5割を超えて、就職率は1割というデータもあったが、高校からの進路選択でどれだけ満足いく進路選択ができていますか？ そういう意味で、どこの学校に進学したというような資料はないのか？ 高校を卒業したあとについてデータとしてだしてもらえないか。

□：後ほど、『府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）』にもとづく高校改革の進捗状況について』ということで説明させていただきたいが、「満足いく進路選択」となると、まだ卒業生を出していない学校もあるので、今のところということで説明できる範囲で説明させていただきたい。

○：多様化していくということで、ニーズにあわせていろいろな種類を用意していると思うが、授業を理解できているのか？ 理解度があがったのかどうか？ というのも示していただけたらと思う。

○：最近の世界陸上で訪れる外国人も地下鉄に乗ったらみんな携帯電話をしているということで驚くらしい。子どもとメディアの関係、パソコンやテレビもあるが、携帯電話の話で、モラルとカリテラシーとか、携帯電話に関して、また個人で持つメディアについてデータがあったらいいと思うが。

□：検討させていただく。

◆「府立高等学校特色づくり・再編整備（全体計画）」にもとづく高校改革の進捗状況について 中間まとめについて

◎：この間、特色づくりや再編整備によって改革に取り組んだ府立高等学校の中退率は減少したとのことだが、大阪全体の府立高等学校の中退率のデータは依然高いのはなぜか。

□：再編整備高校においては中退率が下がっているが、対象校以外の普通科高校においては上がっている状況がある。

- ：果たして再編整備の改革は成功したのか、していないのか。実際の問題として、入学して来る生徒によって中退率が下がって改革がすすんだのか、それとも、高校の特色ある取組みによって改革がすすんだのか。
- ：再編整備校の選抜が前期になったのは大きいですが、学校の取組みとして、参加体験型学習や少人数展開の授業実践、カリキュラムの充実などもあいまっています。中退率の問題は、全体として構造的な問題であると思う。
- ◎：学校の取組みの効果なのか、入学生徒による効果なのか。生徒の満足度調査だけではダメである。従業員が満足しているからと言っていい会社とは言えない。教育効果、成果についても検証を積上げていただきたい。
- ：総合学科が導入された改革校に入学できる子はいいが、その一方で地元の生徒が入学できないという実態がある。そういう中で改革校での中退率が減っている現状があるのではないか。改革対象校以外の高校の実態はどうか。もう少し詳細に見ていく必要がある。今回は、改革対象校を中心に詳しい進行状況を話してもらったが、それ以外の普通科76校の生徒の状況を検証していく必要がある。

◆大阪の教育が目指すものについて

- ◎：資料5の「大阪の教育のめざすもの」について、本日、委員の皆さんから色々意見をいただく。今後の議論によって中身はまだ変わるので、本日決めてしまうのではない。
- ：ひとつひとつ検証していくのは難しい。
大阪の教育については、「絶対指標」（例えば大阪の府立高校ががんばっている現状）、「相対比較」（例えば全国状況と大阪府の状況の比較）、それに、これまで大阪が培ってきた良き伝統。これらを総合的に捉えて総括するべき。
私は個々の事項について言っているのではなく、全体の捉え方を明確にするべきだと申し上げている。
- ：高校改革については、これからの充実・発展が課題。校長のリーダーシップのもと、学校を支援することが大切。今はこれまでの改革の歩みを止め、成長を見守る時期ではないか。
成長が遅れている学校については、なぜ遅れているか、その問題点をしっかり分析する必要がある。一方、成功している学校については、成功要因を抽出し、他の学校にも普遍化するべき。
「再編整備のフォロー」「教員の力の向上」と書いてあるが、まさにそのとおり。
これからは、中身の充実の時期である。
- ：これからは、教育改革プログラムで取り組んできたことの継承・発展。今日の資料にまとめていることは、私としては概ねこのとおりだと思う。
前回の議論で、「信頼される公立学校づくり」という表現があったが、私は違和感があった。地域は学校に期待している。学校のために協力しようという応援団もたくさんいる。こういった地域の力が学校にプラス効果をもたらす。
今日の資料に「地域に根ざす」とあるのはとてもいいこと。
大阪府の施策として「すこやかネット」があるが、これは中学校区単位。こういった中学校区単位での取組みの成果として、小中連携はかなり進んだ。ただ、先ほどの話にもあったが、高校の中退率の課題がある。これは、中高連携が十分には進んでこなかった現われ。
再編整備の結果、一部の高校にそのしわよせがいつている。それらの学校には、課題のある生

徒が多く入学している。これらは送り出す側の中学校の課題としても捉えるべきである。

○：はぐくみたい力の5つ目の○の内容はキャリア教育のことが書かれてある。キャリア教育の視点は重要であり、私としては嬉しいこと。

先ほどの再編整備の中間まとめの報告では、進路多様校で改革が進んだということ。進路多様校にはキャリア教育に力を入れているところも多いが、私は、進学校にこそキャリア教育が必要だと思う。

◎：進学校は大学受験が中心。大学に入って何をしたいか分からない子もいる。

○：子どもの人権に関心がある。中学校にあがると、いじめも不登校も3倍になる。更なる連携が必要。高等学校については、多様なメニューができたが、中学校の進路指導においては、まだまだ「入れる学校」への指導が行われているように感じる。中学校の先生の府立高等学校への理解度について、教えてもらいたい。

○：はぐくみたい「力」のなかに、「環境を大切にできる態度」を入れていただいたのは良いことだと思う。国際的にも共通の課題。総合的な学習の時間については、日本においてはまだはじまっただけだが、世界的には定着してきている。また、諸外国では就学前教育にも力をいれている。これからは先生にも世界に目をむけてもらって、授業、教材の研究開発をしてもらいたい。これからは、1つの教科の知識だけではなく、教科同士を関連付けての授業の開発が、国レベルでも、地方のレベルでも必要。

○：大阪の教育をめぐる状況には、府民アンケートで大阪の教育において重要と考えるものとして、「社会の基本的なルールや善悪の判断を教えること」と答えた方が約6割おり、はぐくみたい「力」として、「公共のルールやマナー」があげられている。本審議会が審議すべきテーマは「学校教育」。これらについて学校がどこまで負うべきものなのか。家庭でなされるべきものではないかとも思う。日本の行政の特徴として、なすべき仕事を限定的にとらえるのではなく、包括的に捉え、何でもやってしまう傾向にある。府民のニーズに応え、はぐくみたい「力」とすることには筋は通っているが、先生には大変な仕事をやっていただくこととなる可能性がある。案が悪いと言っているわけでは決していないが、どのくらいの覚悟を持って、先生にどこまで期待するのかを検討する必要がある。府民は困ったときは行政に期待するが、100%応えるのは無理。学校ができる範囲について府民にはっきり示すのも1つの方法。

◎：私も中教審の委員をやっていたが、誰も反対しないことばかりが示されることが多かった。目標として掲げるのはよいが、施策として実施するときはポイントを絞ってすべき。公共心、規範意識といっても授業をしてもなかなか身につかないが、「知らない人にも挨拶をしよう」という具体的な形から入ると身につくものである。ポイントを絞り、メリハリをつけたものにする必要がある。

○：現場からの情報を提供させていただく。この猛暑の中、地域とのつながりということで地域夏祭りに出ていたのは、校長、教頭など管理職が多く、負担が大きいため一般教員と交代で参加ではいけないのか。

また、進路指導における一例だが、特色のある学校において、担任が、生徒の希望する大学への進路指導を担当の先生が十分に行えず、学校の都合による進路を示された例があると聞いている。

先生が高齢化しているが、なかなか下の指導ができていない状況にあり、サポートが必要だと考える。

子どもをめぐる状況は、ものすごいスピードで変わってきている。大阪の教育が目指すものについても、もう少し緩やかな内容になってもいいのではないかとも思う。

○：確認したいのだが、「大阪の教育がめざすもの」というのは、学校教育がめざすものか？大阪府全体がめざすものということか？

教育の中心は学校教育である。直接、教育に携わっているのは教員免許を持った人である。総合学習に対するいろんな評価もあるだろうが、教員免許を持った人は総合学習を教えることができるという資格を得て教員になったのではない。総合学習でよい成果を挙げているケースもあると思うが、場合によってはとんでもない結果になっていることもある。このように、やった方がいいということはたくさんある。しかし、これだけはやらなければならないというのをまずやって、余力があれば他のこともやったらいい。またできないものはできないとか、するべきでないということをはっきりさせるべき。学校でやることを限定してやればいい。経験を積むに従っていろいろできるようになるであろうが、まずしなければならないことを限定することが必要ではないか。学校教育をとおしてどういう子どもを育てたいかという目標についてだが、まず基礎学力が1番目。そのあとの2番目に職業観。その他の目標は、基礎学力や職業観を育てた結果として達成されるもの。世間の人は学校教育に多くのことを期待している。学校はそれを全て受け入れようとしているが、できないことははじめからできないと言ってはどうか。

◎：大阪の教育がめざすものというところは、学校教育についてということではないか。おばあちゃんが子どもに飴玉をあげるのも教育。我々が提言するのはそういう話ではない。あくまで学校教育。

誰も反論できないことを述べるのもいいが、それだけではない。順番についても並列に並べているだけかもしれないが、最後にどういう順番で並べるかも重要。

○：「教育」が何を指すのかについては「学校教育」とするのがいいと思うが、学校教育は学校だけでは成り立たない。子どもの持っている背景には親があり、地域がある。地域との連携や家庭との連携は切り離せない。

アンケートで府民が大阪の教育において重要と考えるもののトップは「基本的なルールや善悪の判断を教えること」ということだが、それは府民全体の仕事ではないかと思う。それは学校だけではできない。府民一人ひとりが行うこと。この力をはぐくむために「学校の役割は何か」ということで方向性をはっきりさせる必要がある。

下から3つ目の進路のところだが、キャリア教育については、高校で特に言われるが、これは小さい時からはぐくんでいくもの。総合学習などに位置づけて、小学校や中学校からやっていくことが重要である。

「教員の力の向上」についてですが、学校教育に求められる力は様々で

- ・ 授業ができる力
- ・ 社会を知る力
- ・ 子どもの抱える課題を見据える力

など多様な力が必要であり、その意味では教員の採用のあり方についても議論する必要がある。

○：「子どもにはぐくみたい力」のところは学校教育。

子どもを育てる力の源泉は教員、学校にある。その柱の中にどんな学校にしてほしい、どんな力を教員に持ってほしいといったことがある。右の課題のところに授業評価とか学校評価とか

があるが、評価をして改善につなげていくことをどうやって学校が実現していけるのか。それぞれが学校の程度裁量権をもって校長がリーダーシップを発揮して学校の課題にあった形にしていくのか。またそこに対して行政がどう支援できるかということも必要。評価して改善につなげていく仕組みが大切。

審議会としても、こういった評価ができるのか。ここで考えたことがどういう成果となって、どう評価されるのかということも問われている。

◎：今日の意見を参考にしながら、事務局として、再度検証していただくということをお願いする。